

令和6年度

# 防災研修

## 人と防災未来センター(神戸)

## 兵庫県広域防災センター(三木)

令和7年2月15日(土)

弥生が丘自治会防災部/弥生が丘自治会自主防災会

参加者一行31名は大型バス1台でコミセンを出発。午前中、神戸市にある「人と防災未来センター」では、阪神淡路大震災や東日本大震災等、実際に発生した地震災害の映像視聴やパネル展示を見学。午後は三木市にある「兵庫県広域防災センター」で防災講和の後、煙道体験と起震車で震度7の揺れの体験をしてきました。





起震車体験  
震度7



煙道体験:煙道の中～何も見えません!

### 参加者の感想

30年前、東灘区で被災しました。幸い家族全員無事でしたが家は全壊でした。今日の研修に参加して30年前の悪夢がよみがえりました。現在は縁があって弥生が丘で平穩に生活していますが、いつ災害が発生するかは分かりません。今日の研修を参考に災害への備えは十分にしておこうと、改めて自覚しました。

個人ではこのような施設には中々行くことはできません。研修を企画して下さいました。講師の方のお話をお聴きし、災害への備え(自分で出来る事はする、近所付き合いの大切さ)の大事な事が良くわかりました。

煙道体験では、部屋の中が真っ白で全く出口がわかりませんでした。結局、係の方に助けてもらい、入口から出て来ました。

災害はいつ起こるかわかりません。災害に備え「水や食料の備蓄、家具等の固定、お隣さんの助け合い」をしようと思いました。

起震車で震度7の揺れを体験しました。飛ばされそうになって怖かった。煙道体験ではすぐに出ることが出来た(小学生)

自分は被災経験はありませんが今回の研修で、映像やパネル展示を見て地震の怖さが十分伝わりました。

帰ったら、今日の研修内容を家族で話し合い、災害に備えたいと思います。

阪神淡路大震災の時は西宮にいましたが、幼稚園の時で記憶は全くありません。今日の研修で改めてすごい地震だったんだと痛感しました。災害発生時初期の近所同士の助け合いの大切さがわかりました。

あの痛ましい「阪神淡路大震災」から 30 年が経過しました。ともすれば当時のことが忘れ去られようとしています。我々の住む西日本では今後30年以内にかんりの確率で「南海・東南海地震」が起こると言われています。地震などの災害に備え、私たち一人一人が、まずは(自助)「自分で出来る事(水・食料の備蓄、家具の転倒防止措置等)」を意識を持って準備すること、又災害発生初期には(近助・共助)「近隣の住民同士の助け合い」をすることが被害を最小限に(減災)にとどめることが出来ると確信します。

ちなみに阪神淡路大震災で被災された35,000人の内、近隣住民によって救出された方は、実に27,000人(77%)にのぼります。警察、消防、自衛隊等公的機関に救出された方はわずか8,000人(23%)です。(内閣府の公式データより) この事からも、災害発生時初期の近隣同士の助け合いが如何に大切かがわかります。普段より近隣同士のお付き合いを心がけて下さい。

今回、若い世代や子どもたちも多く参加してくれました。大震災を経験した私たちは、災害に備え何をすべきかを若い世代に確実に伝達していくことの大切さを、今回2か所の施設の見学・体験を通して、改めて認識してきました。

弥生が丘自治会防災部/弥生が丘自治会自主防災会